

[活動報告]授業紹介：英語Ⅱ（安田クラス）

保健科学部2年生の必修英語科目である英語Ⅱでは、各担当教員が専門性を生かしたプロジェクトを実施しており、学生は自分が伸ばしたいスキルに応じてクラスを選択できます。安田クラスでは、英語による漫画制作を通して主にライティングスキルを身につけることを目標としています。さらに、完成した漫画作品を外国人居住者や観光客に向けて公開し、福島市の魅力を発信することで地域の国際化に貢献することも目指しています。このように、教室内での学びにとどまらず、実社会への貢献を目指すアプローチをProject-Based Learning (PBL) といいます。完成した英語漫画は、店舗や観光協会などを通じて配布されることを想定しています。

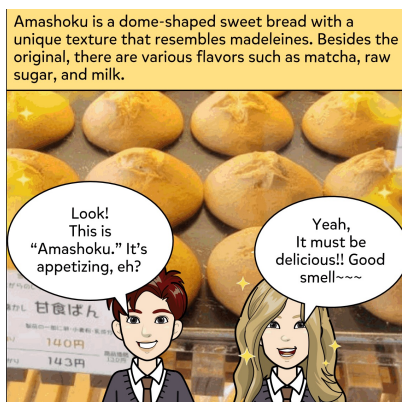
漫画は潜在的に娯楽的要素が強いため「大学生が漫画で英語を学ぶの？」と意外に思われるかもしれません。しかし、漫画制作には高度な語学力と表現力が求められます。漫画は「絵、セリフ、ナレーション」の三つの要素で構成されます。これは、文字だけでなく視覚情報も組み合わせて意味を伝えるマルチモダリティという考え方に基づく表現です。限られたコマ数の中で、どのように情報を整理し、読者に分かりやすく伝えるかを考えることは、効果的なコミュニケーション能力の育成につながります。

また、本授業では、セリフには日常会話で使われる口語英語、ナレーションにはアカデミック英語を用います。会話では省略表現や口語的な言い回しが使われる一方、ナレーションでは正確でフォーマル度の高い語彙や文法を用いるため、学術英語に応用できる表現を学ぶことができます。同じコマの中で話し言葉と書き言葉を使い分けることで、それぞれの特徴を比較しながら理解を深められる点も、漫画ならではの特徴です。

さらに、漫画におけるイラストは、文字だけでは伝わりにくい内容を補い、読者の理解を助ける重要な役割を果たします。学生は漫画制作を通して、状況に応じた会話表現や学術英語、視覚資料を効果的に活用する方法を学び、情報を整理して分かりやすく発信する力を養っています。

後期の授業は、健康や医療をテーマとし、ボイスコミックとポスターを作成します。これらを通じて学会発表などにも応用できる英語の箇条書きや、カジュアル・フォーマル双方のスピーキングも学習します。テーマには専門分野の授業で学んだ内容を取り入れることを推奨しており、自らの専門を英語で発信する実践的な機会となっています。本授業を通して、学生が専門分野を英語で発信する力と自信を身につけ、将来、国際的な場面で活躍するための基礎を養うことを目指しています。

なお、安田クラスの取り組みは、福島市観光コンベンション協会のホームページでも紹介されました。ぜひ、記事を <https://www.f-kankou.jp/pickup/37671> または下のQRコードからご覧ください。



(人文・社会科学領域領域 教授 安田 尚子)

人文・社会科学領域に1名の教員が着任しました

准教授・中島 範宏(医療法学)



2026年3月1日付で人文・社会科学領域に着任いたしました中島範宏と申します。淵源が明治時代の白河医術講義所という歴史ある福島県立医科大学にご縁を頂き光栄に存じます。

前任校は東京女子医科大学医学部（衛生学公衆衛生学講座）で、医学部・看護学部・看護専門学校の医療法学の科目責任者を務め、国家試験対策とリベラルアーツの両面から教育を行って参りました。実務面では女子医大の医療安全・危機管理部の副部長として法人全体の防災危機管理や医療安全啓発センターの開設に従事しました。また、上級臨床倫理認定士の資格も取得し、臨床倫理コンサルテーションチームや生殖医療適応検討小委員会委員などの院内の仕事からも多くのことを学ばせて頂きました。このような実務経験も福島医大での教育活動に活かしていきたいと考えております。

福島医大に着任して数カ月が経ちましたが、本学は真面目な学生が多い印象を抱いています。現在、「医療と法（医学部12コマ、看護学部15コマ）」、「社会保障を考える（医学部15コマ）」、「社会と法（看護学部30コマ）」、「医療とプロフェッショナルリズム（3コマ）」などの講義およびテュートリアル教育を担当しており、学生の反応を見ながら満足度が高い教育内容に充実させて参ります。

私は中央大学法学部の出身で、早稲田大学で法学修士、北里大学で医科学修士、東京大学で医学博士の学位を取得した経緯もあり、右表のように日本の保健・医療・福祉が抱える政策的課題に対して法学

研究と統計解析を用いた医学研究の双方向からアプローチすることが私の研究スタイルです。

医療事故調査制度や訪日外国人への医療提供のあり方など現在の厚生労働省の政策に関連する研究にも参画してきましたが、紙面の都合上、今後の研究の展望について少しか触れたいと思います。

医療は有限な社会資源ですが、生命や健康に直結するため、国民にとって欠くことが出来ない公益性の高いものです。宇沢弘文先生は医療が社会的共通資本であるための第1の条件として、社会を構成するすべての人々が、社会が提供可能な最高の医療を受けることができる制度的、社会的、財政的条件が用意されていることを挙げています。また、第2の条件として、ヒポクラテスの誓いを誓って医の道を志した医師が、医師として、また一人の人間として、その生きざまを全うできる制度的、社会的、経済的環境が整っている必要性も指摘しておられます。

この両者のバランスをとりながら、医療をどのようなルール（社会規範）のもとで共有管理していくべきなのかが私の最近の関心事です。そこで、医療に関する法や倫理等の社会規範について「医療者－患者関係」「医療チーム内」「地域社会」のような階層別にマッピングして視覚化し、非常時（災害時など）の医療資源の財の性質の変化も考慮したうえで、医療への社会規範の適用や地域社会における医療の在り方について探求したいと考えています。

ご指導のほど、どうぞよろしくお願い致します。

① 医療に関する法・政策研究	海外の異状死究明制度の調査（現地調査、比較法研究） 診療関連死発生時の医療者の意識（統計解析、法学研究） 医療事故の届出意識と医療者の職業性ストレス（統計解析）
② 医療・病院管理学に関する研究	病院内の転倒転落と向精神薬の処方傾向（インシデント分析） 病院内の自殺企図患者の要因分析（データベース研究、統計解析） 臨床倫理コンサルテーションの成果に関する研究（質的研究） 医療安全教育に関する研究（現在実施中）
③ 災害医療制度に関する研究	東日本大震災時の医療対応と問題点の把握（統計解析） 災害用医薬品・医療材料の備蓄課題（統計解析） 災害時の孤立高齢者への医療提供と介入方法（現在実施中）
④ 社会保障に関する法・政策研究	訪日外国人への医療提供の在り方（原価計算、政策研究） Commons論と医療資源（理論研究） 社会資本を共有するコミュニティの規範（現在計画中）
⑤ 産業保健に関する法・政策研究	日本の医師の働き方（タイムスタディ、統計解析、法学研究） 医療職の労災事例にみる法的課題（統計解析、法学研究）
⑥ 社会規範（法、倫理）と医療に関する研究	医師－患者関係と社会規範の関連に関する研究（現在計画中） 社会規範によるチーム医療への影響に関する研究（現在実施中） 社会規範が地域社会と医療に与える影響に関する研究（現在計画中）

(人文・社会科学領域 中島 範宏)

数物・情報・統計科学領域に1名の教員が着任しました

講師・川上 拓人(物理学)



2026年4月に着任しました、川上拓人（かわかみ たくと）と申します。岡山大学で学位を取得後、物質・材料研究機構(NIMS)、京都大学基礎物理学研究所、大阪大学等を経て、本学に赴任いたしました。

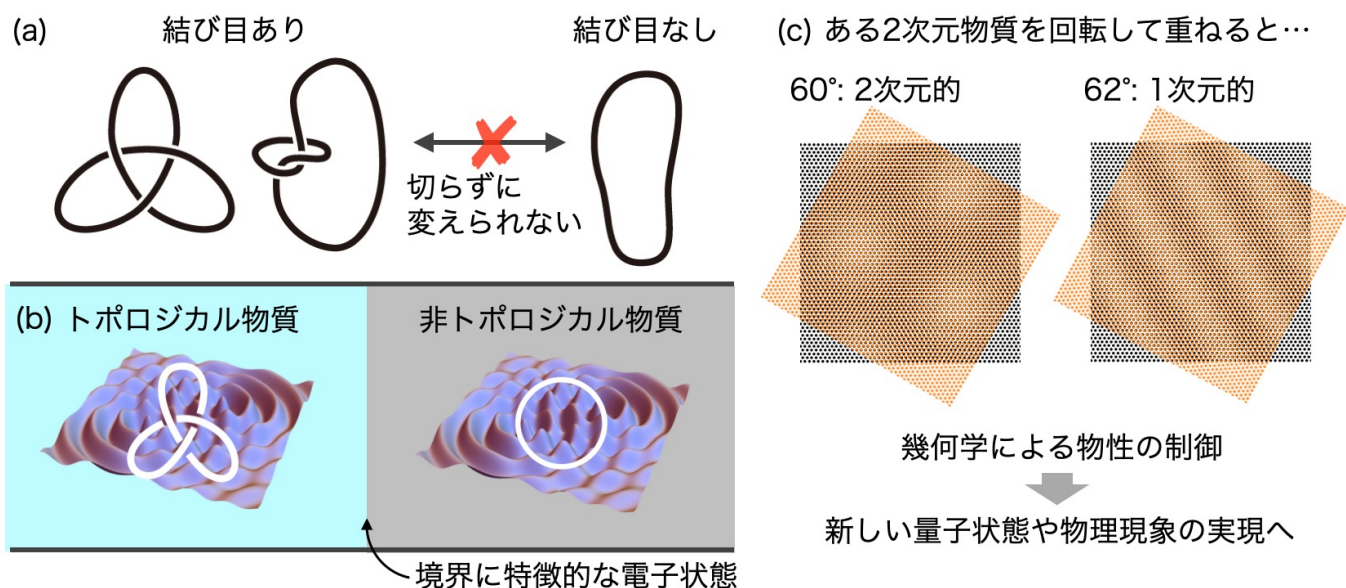
これまで主に、物質中に現れるトポロジカルな電子状態を中心とした物性理論の研究を行ってきました。「トポロジー」とは、物体を曲げたり伸ばしたりしても変わらない性質のことです。身近な例では、紐の結び目を考えることができます。紐を切らずにいくら形を変えても、一度できた結び目をほぐくことはできません。このような「簡単には変わらない性質」がトポロジーの特徴です。

物質中では、電子は波として振る舞います。この電子の波にも、紐の結び目に似たトポロジカルな構造が現れることがあります。私はこれまで、こうしたトポロジーに由来する特徴的な電子状態を理論的に調べ、新しい量子状態や物理現象をどのように実

現できるかを研究してきました。特に、トポロジカル超伝導体に現れる渦とマヨラナ零モード、二次元物質におけるトポロジカル電子状態などに着目してきました。近年は、二次元物質を重ねることで生じるモアレ構造にも着目しています。物質の構造や重ね方を変えることで、通常物質では実現が難しい新しい量子状態を生み出せる可能性があります。

本学では、主に医学・看護学を学ぶ学生を対象とした自然科学教育を担当します。医学においても、画像診断や放射線治療、生体計測など、物理学を基礎とする技術が数多く利用されます。そこで、単に物理学の知識を身につけるだけではなく、「なぜこの現象が起こるのか」という疑問を出発点として、実験やデータ解析を通じて考える力を身につけることを大切にしたいと考えています。また、研究活動を通じて培ってきた、数値計算やプログラミングを用いて問題を解決する方法についても、教育の中に積極的に取り入れていきたいと考えています。

これまでの研究で得た経験を本学での教育・研究に活かしながら、学生の皆さんが自然現象を物理学的に捉え、その背後にある考え方を直感的かつ構造的に理解し、自ら問いを立てて考えることのできる力を身につけられるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



(数物・情報・統計科学領域 川上 拓人)

[活動報告]公開講座：経済的な視点から見る人口の高齢化と医療費

講師:湯田 道生 先生(東北大学
大学院経済学研究科 教授)



2025年10月8日(水)に「医療経済に関する公開講座」として、会場とオンライン配信のハイブリッド開催を行いました。一般の方、大学院生、教職員を含めてのべ67名(会場22名、オンライン45名)が参加しました。

講演の冒頭で湯田先生は、経済学を「人々がどうすれば幸せになれるのかを考える学問」と紹介され、「人々の幸せが社会全体の幸せにつながる!」という経済学の魅力をわかりやすく語られました。

前半では、個人や企業、そして社会がもつ限られた資源をどのように活かすかという“希少性”の考え方を軸に、経済学的な視点から資源管理の重要性を説明、さらに、マクロ経済の観点から、近年問題となっている医療費の高騰との関わりについて解説されました。

後半では、「人口の高齢化が医療費増大の主因である」という一般的な見解に対し、国民健康保険・介護保険・特定健診データを統合した総合的パネルデータの解析に基づく研究成果を紹介されました。その結果、死亡者の死亡前1年間における終末期医療費が上昇する一方で、年齢階層が上がるほど医療費は減少する傾向があり、これが医療費抑制に寄与していることを明らかにされました。その一方で、長寿化に伴う高齢化は介護費の増大を招くため、医療費と介護費を合わせた総額は大きく減少しないことを示し、高齢社会における包括的な保健制度の在り方を再考する必要性を、経済学の視点から論理的かつ平易に解説いただきました。

最後に、熱意あふれるご講演で会場を大いに盛り上げてくださった湯田先生に、深く感謝申し上げます。

(公開講座担当: 田辺、亀岡、安部、小澤、末永)

[活動報告] キッズラボ

2025年9月30日(火)3校時(11:15~12:00)に、福島県立須賀川支援学校医大校において、中学1年生を対象とした出前授業「キッズラボ」を実施しました。2025年度は、生物・化学領域の西山が担当し、「昆虫の構造色の観察～構造色シートでアクセサリを作ろう～」と題して、昆虫の構造色の観察と、構造色の原理を応用した構造色シートを用いたオリジナルアクセサリの制作を行いました。

まず、光の性質と構造色の原理に関する講義を行いました。続いて、実体顕微鏡を用いて、海外産のニジイロクワガタやコガネムシ、福島県内で採取されたタマムシおよびミドリシジミ(チョウ)の観察を行いました。実際に構造色を観察した生徒さんは、当初は昆虫が苦手だったようですが、昆虫の殻や翅に見られる構造色の美しさに感動した様子で、熱心に顕微鏡をのぞいていました。続いて、構造色シートを用いたアクセサリ作りを行いました。まず、好きな型を選び、その中にレジンを流し込みました。次に、その上から構造色シートを重ね、UVライトを約3分間照射してレジンを硬化させました。この際、レジンには構造色シートの微細な凹凸に沿って硬化するため、レジン表面にも構造色を生み出す構造が転写されます。完成した作品を光にかざすと、構造色による虹色の輝きを観察することができました。生徒さんは星形やカメレオン型、恐竜型などを選び、オリジナルのアクセサリ作りを楽しんでいる様子が印象的でした。また、完成した構造色サンキャッチャーを教室の窓に飾ってくださっているとうかがい、大変うれしく思っています。

後日、生徒さんからキッズラボに対する感想文をいただきました。45分という短い時間ではありましたが、この出前授業を通して「生物の不思議さや面白さ」を感じていただけたのであれば幸いです。

(生物・化学領域 西山 学即)